

「市長と語ろう！」意見交換会（タウンミーティング）

【対象者別】子育て世代【概要】

日時：令和6年1月28日（日）

10時30分～11時30分

場所：子ども未来センター

くるりん子育てひろば

1 開会の挨拶

（市長）

皆様、おはようございます。昨年の9月8日から、立川市では第23代目となります市長を務めております酒井大史と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、子育て世代ということで、私は55歳なんですけれども、実は遅い子持ちで、45歳のときに1人目の子ども、息子を授かりました。また、50歳のときに2人目の、今度は娘を授かりまして、今、上の子は小学校4年生、下の子は5歳児ということで、おじいちゃんのようなパパではあるんですけれども、若いお父さんやお母さんに負けないように、気持ちだけは45歳のつもりで日々子育てにあたっております。

今、市長になっての一番の悩みが、なかなか子どもと遊ぶ時間が取れないということで、一時、うちの妻から、息子が「こんなだったら、パパ、市長にならないほうがよかった」と言っていると聞いて、ちょっと心が痛みながら、子育て世代を標榜して市長になったにもかかわらず、自分の子どもと接する時間がなかなか取れないのは本末転倒だと思っております。早く市長としての仕事にも慣れながら、うまく時間を取って子どもたちとも遊んでいきたいと言いながら、今日も息子と娘を家に置いて、妻に任せてここに来ているという状況でございますので、皆さんからいろんな意見をお聞かせいただいて、立川市の子育て施策の推進に努めていきたいと思っております。

私は、息子が第二小学校に行っているんですけれども、ずっとPTAの副会長をやっております。途中で投げ出すわけにもいかないので今年度いっぱい3年目のPTAの副会長を今現在も継続中でございます。また、多分皆さんがこれからいろいろと体験するであろう37度5分の壁というのも、自分自身も都議会議員をしていて、電話がかかってくる、迎えに来てくださいというような経験もいたしました。

今、子ども等で、塾代だとか、いろんな習い事のお金が本当にかかるなという、そういったことも自分事として経験をしておりますので、来年度の予算編成の中で、本日いただいた皆さんの御意見等も踏まえながら、皆さんが子育てしやすい環境をつくっていききたいなということで、ちょうど今、お子さんが、「市長、話が長いぞ、そろそろやめろ」という感じで間を入れていただきましたので、以上とさせていただきますと思います。どうぞ今日はよろしくお願いいたします。

あと、皆さん、最初に確認なんですけれども、ちょっとおしゃべりな市長なものですから、発言が多いと思うので、マスクをしたほうがいいかな、安心だよという人がいらっしやいましたら、以降はマスクをさせていただきたいと思います。別にそんなのいいですよということでありましたら、このまま続けさせていただきたいと思いますが、1人でも「市長、マスクしろ」と言ったらマスクをします。どうですか。

いないということで、このまま続けさせていただきます。よろしくお願いします。

2 意見交換

(司会)

それでは、これより意見交換会を始めさせていただきます。御意見のある方、挙手をお願いいたしまして、御発言の際は簡単なお住まいとお名前をおっしゃっていただけたらありがたいです。

それでは、忌憚のない御意見をお聞かせいただければと思います。何か御意見のある方はいらっしゃいますか。

(参加者)

市長様、はじめまして。市長さんに投票させていただきました。

私は、病院で勤務する医師として、立川に来て4年目になります。私は、立川北口のサンサンロード沿いにあるマンションに住んでいるんですけども、コロナ禍が終わってから活気が出たことは僕もすごくいいかなと思ってはいたんですが、サンサンロードで夜な夜なスケボーをしている若者たちがいっぱいいる。子どもが寝つくような時間、いわゆる8時以降とか、12時以降もそうなんですけれども、かなり暗くなってから、大分静かになったあたりでカコンカコンといったような、ジャンプするような、響くような、あの辺は高層ビルに囲まれていて音が反響するのもあると思うんですけども、ジャンプしやすいような高島屋の階段とかを使って、物すごくジャンプしている。

私も、耐えかねてというか、隣人の方とかともかなり話し合っていて、あれはさすがに寝るときは迷惑ですよねという話をして、マンションの隣人の会で、僕たちだけでも警察に通報しましょうということで、通報を頻繁にしているんですけども、一向に収まらない。これは、もう1年ぐらい続いています。私も、もう多分100回ぐらい通報しているし、隣人の方ももっとしているんだと思うんですけども、警察の方が来てから、警察の方とお話をさせていただく機会もありまして、そうすると、警察の方もパトロールで来ていて、注意することはできるけれども、処罰というか、そういったものが与えられないせいで、その場しのぎの対応になってしまっていることは心苦しく思うと。私たちはこれしかできないんだけど、道路交通課に言ってもらえれば何とかなるかもしれないと言われたんですね。

私がこういうふうに言う根拠としとしても、一応いろいろ法律のことも調べてきて、まず道交法違反、道路というところで、歩道も含まれる道路ということなんですけれども、「交通のひんぱんな道路において、球戯をし、ローラー・スケートをし、またはこれらに類する行為をすること」が禁止されていると。また、東京都の条例、「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」というのがあって、その133条に「何人も、夜間（午後八時から翌日の午前六時までの間をいう。）においては、道路その他の公共の場所において、みだりに付近の静穏を害する行為をしてはならない」と書いています。つまり、条例で規定されているということなので、市が動いていただけるのであれば動いていただきたいと思っています。

以上です。よろしくお願いします。

(市長)

ありがとうございます。どうぞ座っていただいて。

サンサンロードのみならず、ファーレ立川のちょうど真ん中の交差点で、夕方ぐらいから夜にかけて多くの若い方々がスケートボードをやっているという苦情は、私、市長への広聴はがきでも度々見る機会があります。私自身も、もともとファーレ立川の近くに行政書士の事務所がありますので、そういった場面を見ているんですけども、立川市としても、立川警察署といろいろと話させていただいております。

そういった中で、今、道交法の話と、いわゆる騒音防止条例、環境の維持をするということで、夜8時から6時までには静穏を保たなくてはいけないという条例なんですけれども、警察と担当の交通課等々で話をさせていただいているところ、今、警察の中では、道交法だとか、あるいは東京都の条例ということで取り締まることがなかなか難しいと。取り締まることができるすると軽犯罪法なのかなということなんだけれども、その場所でいつとき、適用がなかなか難しいらしいですね。

ということなので、今警察と話をしているのは、私も若い人たちが遊びたいという気持ちはよく分かる。なので、イケアの隣にスケートボードパークというのがもともとあるんですけども、路面がガタガタになってしまっているんで、今そこを改修しております。改修をした後、まずはそこに促すような方法を一旦取っていかうと。促すような掲示もしていこうと。という段階を踏んだ上で、近隣の方からすると、おっしゃっていたとおり、すごく多分響くと思うんですね。そこの部分について、それでもなかなかならないというようなことであれば、市として条例なり何なりということで規制をかけられるのかどうなのかという部分については、次の第2の段階で取り組んでいければなと思っております。

ただ、スケートボードパークも、何かローカルルールがあるらしくて、ある程度技術力がないとあの中でできなくて、あんまりうまくない子は道でやるということもあるので、これについては引き続き警察と連携をしながら、まずはそちらに促していく。促してもなかなか無理だと、注意喚起しかできないと今おっしゃったとおりなので、その部分については、既存の条例を警察が適用できるという話をなかなかもらえないので、今後どうするのかという部分について考えていく、そうした取組をしていきたいと思っております。

(参加者)

市長さん、お言葉ではありますが、全く実態が分かっていないかなと思います。僕は、スケボーの人たちは別に怖くはないので、普通に1人で乗り込んでいって、彼らとお話をする機会もあったんですね。その中で、「お前ら、そこでやっているのは違反だよ」っていうんですけど、逆上されます。逆上してきて、「何だよ、お前」と言って3、4人に囲まれたりするんですけど、周りに人もいますから、すぐ警察に電話をかけて、ちょっとでも触れられたらすぐ警察に来てもらっているというような状況です。僕はすぐ乗り込んでしまうんですけど。

そんな中で、彼らは、「お前ら、何やってんだよ」って言うと、「俺らはストリートスケートボーダーなんだ」、「俺らはストリートなんだよ」と言う。「おまえら、あっち行けよ」って、僕も言ったことあるんです。「あそこにあるだろう」と。そうしたら、「は？ おまえ、何言ってんだよ。俺はストリートスケートボーダーなんだよ」って言うんですね。

つまり、スケートボーダーにも2種類いて、ちゃんとルールを守るやつとそうでないやつがいるわけで、そうでないやつを話をしなきゃいけないのに、スケートパークを造ってルールを守る人のための整備をしたところで、そうでない人の対策は全く行われていない

という現状があると思うんですね。

スケートボードというのは、静岡等でかなり頻繁に行われているようで、そういったところでは、歩行者がいるところで頻繁に逮捕者が出ているようです。それは、警察の注意を振り切ったりとか、誰かと接触事故を起こしたりとか、そういった何かアクションを起こした上でじゃないと警察も動けない。つまり、音を立てているだけでは逮捕できないという現状はあるんですけども、いわゆる警察が動いてくれるとしたら、プラス僕たちが、例えば私が行って、もめて、私が殴られること、いわゆる暴行事件に発展したりすると、そこでやっと警察は本腰で動いてくれるというのもあって、私は身を挺して行っているという現状がある。ですので、私が殴られて病院に行かなきゃいけないとか、負傷を負ったときには、このときの録音の音声を言っていて、私がどういう意味合いで動いたかどうかを察していただきたいと思います。

（市長）

ありがとうございます。ストリートスケートボーダーだという主張をするんですね。分かりました。２種類、ちゃんと場所があればやろうと思っている「場所がないからここでやるんだよ」というスケートボーダーと、「いやいや、そんな小ぢんまりとしたところじゃなくて、がんがんやりたいんだ」って人と、昔からそういうのはいるんですけども、要は度が過ぎていているという話でしょうから、けがをされるようなことは……。

僕も、よく絡まれることがあるんですよ。何かあったときには、こっちが暴行だと言われないように、手を後ろに組んで、一発でも殴られたら警察だなという形で対応することもある。ですが、大けがをされるようなことがあってはいけませんので、市としても、経費の問題だとか、あるいはストリートスケートボーダーだと言って、ある意味、粹がってやっているような若い人たちに対して、ちゃんとやめろということを言えるような根拠、要は傷害だとか暴行事件にならないと警察が動けないということではないような、その一歩手前でやめろと言えるような方策というものも、早急に担当の課と警察とで協議をして、刃傷沙汰にならないように早めに取り組みたいと思います。

ストリートスケートボーダーだと言っているのも、そういう言葉を使っているとは思わなかったです。ただ、そういうところでやりたい、目立ちたいという若い人はいるんだろうなというのは思っていたんですけど、ありがとうございます。これは持ち帰って、交通対策のほうでそういった方に対する対応策を早急に練っていききたいと思いますので、けがをしないでください。僕も、夜見に行って、僕もあまり怖くないんで行ってみたいと思いますので。ありがとうございます。

（参加者）

最後にいいですか。長々とすみません。SNS等でも、警察に注意されるまでがストリートスケートボーダーの仕事だというふうな書き込みが多々あって、彼らは、何をしたいかという、スケボーパークでのアクションをみんなに見せたりとか、練習したいわけではなくて、彼らはSNSに自分の動画をアップしたいんです。なので、成功する、いい技が決められるまで何回も何回も同じ場所で、しかもストリートで、そういうのを動画で撮っては、一番かっこよく撮れた動画を編集して、つなぎ合わせて、自分のSNSに貼り付けて、それを自分のステータスにするというのを目的としている。なので、基本的にスケボーパークでの技というのは動画の一部分にしかなく、基本はストリートで、いろんなところでいろんなアクションをやっているのをつなぎ合わせて動画にして、それをS

NSで発信したいというのが彼らの意図なので、いわゆるスケボーパークというのはほとんど機能しないということなんです。すみません。お願いいたします。

(司会)

ありがとうございます。くれぐれもおけがのないようにお願いしたいと思います。

いかがでしょうか。そのほか……。

では、ブルーのパーカーの方、お願いいたします。

(参加者)

立川市に住んで20年ぐらいです。子どもが、年少さんです。19年かけて今、国民年金を月1万9,000円もらっています。国民年金の話を市長様と話したいんです。よろしくお願いします。

30年前に中国で勤めていた会社で、世の中が豊かになっていると聞いた。いろいろうまく造ることができて、例えば電車、飛行機、船、バス、ロボット、鉄道、農作物もいっぱい種類を生産し、食品の製品も一番になったと言える。でも、ずっと都市部で、住民の人たちは食べ物に底をつくようになっていていると考えています。その人が、働き方は政策で失業し働き場、少なくなっていると考えています。長生き、よい社会になって、子どもも多く生まれて、若者たちの労働場を守るために。基準は、高く作ってほしい。生活できている成長を望む。女性55歳、男性60歳、定年の重要性、必要性を還元する施策を、検討する社会になっている、じゃないと。成人になってから60歳、最初に言った加入期間と変わってしまった。それで、国民年金は少なく納付した人の年金が、ずっともらうんですね。家事や育児などの家庭労働は女性に偏りがちですが、女性が男性より5年前、55歳で年金をもらってくればいいでしょう。

市長、市民の暮らしにマイナスになるものには、ノーと言いましたね。市民に寄り添い、施策を進めてくれませんか。市民と一緒に努めていきませんか。ありがとうございます。

(市長)

なかなか全て理解できているかどうかですけれども、国民年金に関するお話だったと思います。

国民年金の加入期間、あるいは受給額については、市がその事務等を行っているんですけれども、これは日本の国として基準額や期間というものを、どこの地域に住んでいても制度として同じようになるように行っているので、立川市だけ年金という部分についての加入期間の問題や、あるいは支給額という部分について変えるということはなかなか難しいのかなと思います。

ただ、来年度の予算に向けて考えていることは、これは年金ではなくて国民健康保険のほうですけれども、厚生年金とか共済年金と違って、均等割のところで、個人の頭数によって保険料を算定するという部分があったりする。その部分については、立川市が特に子育て世代の方々への負担感を少しでも軽減できるような施策ということで、ここにお集まりのような未就学のお子さんに対する負担の助成というものを立川市としては考えていきたいなと思っています。

今お話をいただいた年金の加入期間の問題、あるいは女性に対して早期の年金の支給をすとか、そういった制度については、御意見としては承りましたけれども、立川市として独自に対応ができる話ではございませんので、そういった御意見もあるということは国

等々にも伝えていくということしかお答えができないということで、大変申し訳ございませんが御容赦をいただければと思います。

(司会)

よろしいでしょうか。

そのほかの御意見、ございますか。

では、後ろの眼鏡の方、お願いいたします。

(参加者)

私は、立川市に生まれてから、今までずっと住んでおりまして、大分立川市の変化も、小さいときから目にしております。現在、私は介護支援専門員として、市内で働いていますが、ほかの市区町村でも福祉の仕事をさせていただいております。

まず、今日は子育てのところということなのですが、今のお二方の質問で思うところがあるので併せてお話ししたいんですが、私もスノーボードをやったりとか、いわゆるサブカルチャーのものに魅力を感じるので、実際若者がストリート何とかというふうに、かっこいいと思うのは同じように分かるんですが、例えば南口で今、いわゆる水商売、あそこの辺りに警備員の方を配置していただいたりしているじゃないですか。実際は、いろいろそれぞれの思いがあるんだと思うので、できる対応としては、警備員の方、多分場所が決まっていっちゃうのかなと思うので、人件費、いろいろ予算等はあると思うのですが、そこに人を入れていただくのがいいのかなと。私も子どもが3人いるんですが、連れて歩いているときに、横で危ないなと思うこともあれば、かっこいいなと思うようなところもあって、両方の心理があるものですから、そういうのもどうなのかなと思いました。

先ほどの年金のお話なのですが、多分私も、自分で、この年になってNISAや、今やっている経済的なもので、自分のお金は自分でつくらなきゃいけないよというふうに言われている中で、私たちは子どもの頃からお金の勉強をしていないなと思うので、総合的授業の時間とか、市区町村で、いろいろ学校等で割り振られているところにそういうような勉強だったり、時間を得ることで、子どもの発育、未来にとってもよろしいんじゃないかなと思ったところです。

もう一つ、しっかりした遊具のある公園をもっと造っていただきたいというのが本当の今日の質問でございます。この間、夏に大阪に行ったときに、これはお金を払ってもいいんじゃないかと思うぐらいの遊具が市内にございました。私も親になって、事故や何か、それこそ保育園へ通わせていても、一つ傷をつくるだけで先生方にすみません、すいませんと謝っていただくんですが、いやいや、傷をつけて本来大きくなるものじゃないかという昭和感も正直ある。世の中いろんな御家族が、親御さんがいるのであれかと思うんですが、もっとしっかり遊べる遊具があることで、習い事にお金を使わなくても体をしっかり動かせる機会、それが発育につながるんじゃないかなと思っておりまして、何かできないかという御相談です。お願いします。

(市長)

ありがとうございます。最初のお話はごもっともで、最近僕も選挙のときの政策の一つに、南口の周辺というのは、すずらん通りの辺りは夜になると客引きのようなこわもてのお兄さんとか、やんちゃっぽいお兄さんとかが路上にまで来て、車で通るのも危ないという、ああいった南口地域の治安の問題というのは改善していきたいなと思っているんです。

今、立川市においては、前市長時代に警備委託会社を替えて、それまでは地元の警備会社で、立川で今対応しているのは路上の客引き、付きまとい行為、あとは路上喫煙の禁止区域が駅から250メートルだったかな、エリアを路上喫煙禁止区域にしているということ、そういうことに対して注意するということをやっております。

僕自身も、注意をするだけではなかなか実効性が出ないのであるならば、例えば渋谷区さんみたいに過料という形で、行政罰なんだけれども、幾らかでも罰金的なものを導入するということも将来的には考えなくてはいけないのかなと思っています。ですが、現状では、少し最近こわもてのがたいのいいお兄さんたちが声をかけてということを目にしていると思うんですが、歌舞伎町だとか、ああいう繁華街等で警備をしている警備会社の方をお願いをしてやってもらうようになっているんですね。そうすると、大分威圧感があるじゃないですか。僕も、いつもありがとうねと声をかけると、彼らも本当に使命感を持ってやってくれている。だから、先ほどのスケートボードのこととかも、注意喚起をするにも優しいような人がお願いねと言ってもなかなか難しいので、少しこわもてのお兄さんたちをお願いをするということもありだろうなと思っています。

さっきの促しながら駄目だったら、次、その次という形で、3段ロケットぐらいでいきいたいなと思っておりますので、その部分について、どういうふうなしつらえで警備の依頼をするか、立川市駅前には条例があって、条例を守ってもらうために警備員をお願いをしているということなので、その範囲を広げていくというときに、サンサンロードの辺りをそういう形で注意をする根拠を示さないと警備のお願いという形はできないので、そこら辺は制度設計をしていきたいと思っております。

あと、お金の問題。私も、ずっと26歳から議員をやっていて、昔は議員さんって議員年金があつていいよねというふうに言われたんですが、私も議員年金はもらえない。市議会議員を7年で辞めて、昔の人は12年議員をやっていると議員年金が出たが、私はなし。その後、都議会議員を10年やったところで、制度なし。実は強制加入だったんだけど、返ってきたのは2割カット。強制加入だったのが、元本割れで、一時金で戻ってきた。そこから確定拠出年金だとか、今 i D e C o と言われているものとか、自分自身で知恵を使って、政治家も老後をどうしようかということで、金融の勉強等もしながらやっている。

子どもを、昔はリテラシーをいかに高めていくかというのが教育の一つのコンセプトだったんですけど、今はコンピテンシーという、O E C D でキー・コンピテンシーというのが言われるようになって、日本の学習指導要領の中でもコンピテンシーを高めていこうという。それは何かといえ、生きる力をちゃんと子どもたちに教育をしていこうということで、立川では立川市民科をやっているんですけども、そのほかにも法教育、何でルールを守らなくてはいけないのかという教育や、あるいは、この間公認会計士協会の人と話をしていたら、「ハロー！ 会計」という形で、世の中の会計、お金の流れの仕組みというものを、出張講座をしているそうなんです。物を売るときに、原価が幾らで、それにどういう利益を乗せて、どういうふうに価格が決まっているのか。例えば、目の前にあるおもち一つとっても、どういう原価計算で価格が決まっているのかということを教えるような、そういった専門の士業の方のこともありますので、今後いろんな学校の場合、学齢期に応じて将来的に生きる力を身につけてもらえるような教育をしていきたいなと思っております。

併せて、少し学齢期が上がったところでは、僕が考えているのは、今いろいろ闇バイト

とか何とかってあるじゃないですか。意図してそういうところに入っていく人もいれば、意図しないで巻き込まれちゃう、そういった方にどういう手口で忍び寄ってくるのかということ、高校生ぐらいが本当はいいのかもしれないんですけども、そういった犯罪の被害に遭わない、あるいは犯罪の加害者にならないような教育など、世の中に渦巻いている現代的な問題について子どもたちに教えていける、そういった場を増やしていきたいなと思っております。

最後、公園、ですよ。うちも子どもからよく言われるのは、ボール遊びができないという。うちの隣の公園も、「危険なボール遊び禁止」って書いてある。「危険なボール遊び」じゃなければいいという。

立川市の今のルールは、ここにいらっしゃるような小さいお子さんが柔らかいボールで保護者の人と一緒に遊ぶ分にはいいですよというのが本来の決まりなんだけれども、いろいろと苦情が来るので、ボール遊びは駄目とかといった看板を立ててしまっているということがあります。ですので、もともとのルールというものをちゃんと定める、また御近所に迷惑のかからないようなところであれば子どもたちがボール遊びできるということをしていきたいと思っております。

また、併せて、市民会館の向こう側の錦中央公園といったかな、については、今後インクルーシブ公園みたいな形で遊具を増やしていこうと思っております。立川市の公園ってあんまり面白くないなというふうに思っております。私も先日、子どもたちを連れて、ちょっと時間ができたので、調布市のゲゲゲの鬼太郎の遊具があるところに行ってきました。ちょうど京王線が地下に入っていくところの調布駅のちょっと西側なんだけれども、電車の好きな人は電車がトンネルに入っていくところが見える。上には一反木綿がこうなっていて、あと鬼太郎ツリーハウスみたいなものがある。あれは市の公園なんですよ。というような、面白い、全然お金がかからないのに子どもたちが楽しめるような公園とかもあります。それは、水木しげるさんが調布市の名誉市民だということもあるんでしょうけれども、立川においても少しずつ、何か事故が起きると、うちも子どもがけがをして、先生がすみません、すみませんと謝る。子どもはけがをするものなんだからと言うんだけど、そういう人ばかりでもないというところで、少しでも子どもたちが遊べるような公園のしつらえというものを、一つ一つ地域の方の理解を得ながら、ボール遊びができる、あるいは遊具があるという形で考えていきたいなと思っております。

立川以外のところではたくさん楽しい公園があって、うちも隣の国立の北公園、水公園とあって、昔は水が流れていたんだけど、それが岩場になっていて、そういうところだけでも、子どもたちが遊具じゃなくても遊べるような、探検ができるような公園で、私も立川生まれなので、昔諏訪の森公園に小高い山があって、あそこをぐるぐる、今日は市議会議員の糸川君もいますが、お互い地元なんで、「昔、あの山ってもっと高かったよね」って話したりします。あそこを自転車でガーッと一周半ぐらいして遊んでいた記憶があるんだけど、行ったらいつの間にか山が小さくなっているのは僕が大きくなったのかなと思ったんだけど、上のほうを少し削っちゃったみたいでね。安全は大切なんだけど、その中でも子どもたちが元気に遊べるような環境は一つ一つ増やしていきたいなと思っております。

以上でございます。

(司会)

市長からのコメントでございました。大丈夫でしょうか。公園のより充実化をお願いしますという御意見でございました。

そのほかの御意見、ブルーのTシャツの方、お願いいたします。

(参加者)

質問が1点と、お願いが1点。

質問の1点目なんですけれども、市長が選挙のときに掲げられていたマニフェストの送迎保育ステーションを早く整備してくれるとありがたいなと思っていて、今我々は共働きのでやっているの、いつ頃できるのかなというところ。

あと、1点お願いというのが、立川駅の北改札のほうに今エレベーターがなくて、中央改札のほうはエレベーターがあるんですけど、北改札のほうから乗ると、改札が分かれています、エレベーターがない。ホームに下りられるエレベーターがなくて、昭和記念公園とかに行くときって北改札のほうに近かったりするということもあって、結構利便性向上とかにもつながるんじゃないかなと思うので、鉄道事業者のほうとかに要望を出すなり何かしてもらえないかなというお願いです。

(市長)

ありがとうございます。最初の質問の送迎保育ステーションについては、私も早くやりたいということで、ただ、来年度の予算の中では、引き続き、僕のイメージ、構想の中では、一番子どもを預けて行きやすいところだと、駅の近くだと、北だとファールのアイムの辺りに子どもを預けて、それぞれやっていく。南だと、場所がどこなのかなというのは、僕の頭の中には若干あるんだけど、今そこを使っている人がいるのであれなんだけど、いずれにしても、それぞれの保育園との調整等々、受入れと受出しの問題と、あと安全性の確保ということがある。

僕は、4年前の落選した市長選挙のときにも既に送迎ステーションをやりたいと思っていて、この4年間の間に、流山だとか松戸だとかはもう導入しているんですね。担当の方も、僕が市長になると思わなかったかもしれないけれども、市長になっちゃったんで、なっちゃった以上はやりたいなということで、先進市、既にやっている市がどういうふうに導入していったのかということ勉強してもらって、市内の保育園、公立と私立、いろいろとあるじゃないですか。そういったところと調整をした上で、僕の中でも早くやりたいんだけど、当然行政としてちゃんとした形で制度設計をしなくてはいけないので、その部分については、早くやりたいという気持ちだけお酌み取りをいただいて、ただその一方で、市長として、ちゃんとゆっくりゆっくりということも。この件については、保育課長に一言お話をさせていただきます。

あと、エレベーターの件は、JRにはそういう要望がありますよということは伝えていきたいと思います。そこら辺はいろいろと福祉整備の関係の予算になって、南武線にホームドアがついたんですけれども、あれも東京都と立川市が一部負担をしてつけてもらったということなので、そういうことも含めながらJRには提案をしていきたいと思っております。

(保育課長)

保育課長でございます。御質問ありがとうございます。

酒井市長が秋から就任しまして、公約の実現に向けては、担当部署としても全力で取り

組んでいるところでございます。開始をするからには、できるだけ多くの皆さんのニーズに応えられるように、効率的に、効果的にできるようにというところが一番意識をしているところです。

現在は、既に実施されている自治体の事例の研究ですとか、市内の事業者との意見交換、あとは保育園に申込みされる方から御意見を伺ったりといったニーズ調査等を行いながら、送迎ステーションといいましていろいろなやり方がございます。ですので、どこの場所に設置するか、送迎先の交通など、いろんなパターンを想定しながら、どうしたら一番効率的で効果的に実施できるかというところをできるだけ早くまとめて、市長とさらに確認しながら進めていきたいと考えているところでございます。

(司会)

よろしいでしょうか。

そのほかの御意見、ございますか。

黒いダウンの方、お願いいたします。

(参加者)

今日はありがとうございます。

私からは、東京都が行っているベビーシッター制度の導入を立川市にもしていただけたらなと思っております。市長も都議会議員だったので御存じかと思えますけれども、東京都にはベビーシッター支援事業があります。それを活用することによって、特に産後のお母さんだと思いますけれども、リフレッシュとして2時間とか3時間、ちょっとお散歩をしたりとか、外の空気を吸いに行ったりとか、コーヒーを飲みに行くとか、そういうことができるのがこの制度になっています。

立川市にも、一次預かり保育のように、こういった未来センターとかはありますけれども、ここに来るには、おむつを用意して、バスタオルを用意して、雨の日には赤ちゃんを抱っこして傘をさして、あるいはベビーカーで来るという大変さがあります。ベビーシッター制度でしたら、自宅に預けて、そのままお勉強をしたりすることができるので思っています。

もしかしたら市長も詳しいかもしれませんが、東京都に負担金を確認したところ、100%東京都が予算を持っていると言っていましたので、立川市に予算的な負担はあまりないのかなと思っております。東京23区内では17区が実現をされていまして、多摩地域では狛江市と武蔵野市の2市が実現されていまして、立川市も3つ目の市になれたらなと思っております、もしよろしければよろしくお願いします。

(市長)

今日は後ろに議員さんがいるのでなかなか言いづらいなと思っているんですけど、私の市政の中では、国や東京都でやっていて、立川市でなるべくお金がかからない、そういったものは市民の利益につながるからどんどんやろうと考えています。何か事業をやるときにも、立川の市民の皆さんが立川の市税を払っていらっしゃる、それはなるべく使わずに、ほかのところからお金を持ってきてやろうねというふうに担当者には指示をしておりますので、今御紹介をいただいた制度は、私どももよく存じ上げております。

さらに、僕の中では、将来的には病児保育の保育所が、なかなか立川って、お医者さんがいるところじゃないと、2か所しかなくて、うちも利用していたりするんだけど、そういうところにベビーシッターみたいなものを使えないのかなという将来の夢はあるん

だけれども、今おっしゃっていただいた都の制度というものは、僕の中では活用していきたいなと思っております。今はまだ予算案を正式に発表する段階にはなっていないので、1か月ぐらい待っていただくと、おおっと思うかもしれないということで、カミングスーンということでお待ちをいただければと思います。

(参加者)

ありがとうございます。一応、ベビーシッター制度は、詳しいかと思えますけれども2つありまして、一時預かり保育と待機児童対策で、こちら2つやっていたらうれしいなと思っております。よろしくお願いします。ありがとうございます。

(司会)

ありがとうございます。よろしいでしょうか。

それでは、その他のご意見、お願いします。

(参加者)

いつもありがとうございます。保育園の園児が1人と、小学1年生の子どもがおります。

今日はお金のお話とかが結構出ていたんですけれども、実は私も、勉強不足で見当違いのことを申し上げたら申し訳ないんですが、ちょうど上の小学生の子が歯の生え変わりの時期で、歯科矯正の話とかも出ているんですが、要は顎が小さいので永久歯が正常に並んでなくて、今後矯正が必要だろうということで先生からお話を受けています。

実は、うちだけではなくて、今日一緒に来ているお友達だとか、同級生、先輩とか、同じように歯科矯正が必要だねという話が出てきている。そうすると、かみ合わせとか健康面もそうですし、歯並びのところでコンプレックスとかもあるので、親としてはやろうかなとは思うんですけれども、費用面としては、病院や状況によっても違うと思えますけれども、100万円近くかかってしまう。それが兄弟でとなると、一人一人で同じぐらいかかるとなると、子育て世帯にとっては大きい出費だなというところがあって、これは市だけの問題ではなくて国としてもなかなか大きな問題ですし、難しいことだなとは思いますが、多くの場合、医療費控除の対象になるとはいえ、実費として払う金額もそこそこ大きいわけですし、どうにかならないのかなというのが率直な思いとしてあります。

別件ですけれども、高齢者の方の補聴器とかも、市区町村によっては、所得によってだとは思いますが多少補助が出たりということもありますので、きっと健康上やったほうが良いというのが実際のところだと思うので、行政のほうでも補助とかを今後検討していたらありがたいなという思いで申し上げました。

(市長)

ありがとうございます。歯科矯正に関しては、実はうちの子どももどうしようかなと、歯医者さんにいろいろ相談をしていると、一説には乳歯のうちからやったほうが良いという先生もいらっしゃる、うちの通っている歯医者さんは、永久歯になってから、小学生になってからでいいんじゃないかという話もされています。

ただ、おっしゃるとおり、高いんですね。私自身も、市長の報酬の中でどうしようかなという、別の仕事もしているんですけれども、思う中で、市としてどの程度、補聴器等の補助等についても私の政策の中では掲げさせていただいて、なるべく早い段階で他市と遜色がないような制度設計はしたいと思っています。

本来であれば、保険適用をしてもらえれば3割負担になるし、立川市は18歳までは実質負担がなくなるので、国でやっていただけるとありがたいなと思いつつも、確かに今の

子どもの一生に関わることで、国への働きかけをしながらも、それが実現しない場合には、とは言っても、補聴器の場合の補助もほんの気持ちなんです。なので、ほんの気持ちにしかならないのかもしれないんだけど、一応そういった要望もお伺いをしました。すぐにという話ではないかもしれませんが、皆さんのお子さんがその時期になるようなときまでに世の中が少し変えられて、歯の問題って一生の問題で、歯科検診等々でも、立川の子どもって、6歳の段階の齲歯、虫歯の率と、12歳になったときの齲歯、要は虫歯が1本でもあった子たちの数は、東京都内23区、26市、1町、何村かあるんですけども、その中でもとても状況が悪いんですよ。なので、少しでも子どもたちの虫歯だとか何とかっていうのを少なくしていけるように、今歯医者さんの中では、無機フッ素の塗布だけではなくてブクブクをしたほうが虫歯になりにくいですよというようなこともあったりするので、いろいろあの手この手を歯科医師会の先生方とも相談をしながら、子どもたちの歯の健康につながって、将来的に8020につながっていくようにしていきたいなと思っておりますので、宿題としてお預かりをさせていただければと思います。

(参加者)

ありがとうございます。よろしくお願いします。

(司会)

ありがとうございます。

そろそろお時間も迫ってまいりましたが、そのほか……。

では、あちらのページの方、お願いいたします。

(参加者)

ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

私は、9歳の男の子と1歳の娘がいる子育て中の母になります。私は、上の子を出産したときに、立川市に越してきたばかりだったので、すごく精神的にも物理的にも孤立しやすかったんですね。元保育士ではあったんですけど、そういったことがすごくあったので、ここで子育てを団体を立ち上げました。毎月、ここ未来センターとか、市内の学習館とかでイベントを開催してきたり、市内の産婦人科とママフェスを4年間やらせていただいたりといった形でイベントを行ってきました。お母様たちにはたくさん参加していただいて、それはありがたいなと思っていたんですけども、一方で、イベントに足を運べるママたちは比較的元気な方が多いので、そうじゃないママたちにこそ届けていかなきゃいけないよねというような課題意識がありました。

やっていく中で、ここにいるママ・パパたち、皆さんそうだと思うんですけど、子育てをしていると、1人だとモヤモヤしてしまったり、鬱々としちゃうこともあるので、地域で子育てをシェアできる仕組みであったり、誰もが情報をキャッチできる、行動力がある・ない、アンテナを張っている・張っていないにかかわらず、誰もが情報をキャッチできる仕組みがあったらいいなと思っておりまして、今産前産後ケアに取り組みたいなと思っています。同じ立川市内で子育てをしているママ・パパたちだからこそ、シェアすることでプラスになる部分が多いのかなと思っています。

例えば、カジュアルなことと言ったら、「子連れで食事するならどこに行く？」とか、そういうところから、もっとシリアスなものまで、「うちの子、発達が気になるんだけどどうしたらいいだろう」、「そういうときにはこの人につながるといいよ」とか、「この団体がいいよ」とか、「窓口はここにあるよ」みたいなことが、誰もがつながれる、それが当たり

前になるというのを目指していきたいなと思っています。そういったことがあることで、先ほどの精神的に孤独に感じてしまったりとか、児童虐待であったり、産後鬱といったところの予防にも強く役立てるんじゃないかなと思うので、今こそ地域で子育てをシェアすることが大事だなと思っています。

昨年の選挙演説のときにも、私はすごく参加させていただきまして、酒井さんの「市民と一緒に、市民主体で、市民本位で、子育てしやすい環境整備」といった言葉、「西の明石、東の立川」なんていう言葉にも引かれて一票を投じさせていただいております。市民と一緒にやるからこそ子育てがシェアできる、行政からの一方的なものではなく主体にやるからこそできることがあるなというふうに思っておりますので、そういったところを立川市と一緒に組めたらなと思っています。

実は、これは担当課の方とか、市議の方にも御相談をさせていただいております。応援をさせていただいているところなので、ぜひ今度酒井さんにも詳しいお話を別で新たにさせていただけたらなと思いますが、いかがでしょうか。

(市長)

ありがとうございます。今度、ゆっくり話しましょう。それぞれの地域の中でいろんな団体の方が当事者同士で、あるいは、立川でも昔から保育ママの制度だとか、過去に自分が子育てを経験した方たちが預かってくれた、あるいはファミリーサポートセンターで、うちの息子のときにはそういった方をお願いをしたり、またうちの娘はここで預かってもらったことも実はあった。ただ、それだけではなくて、保育をしていたり子育てをしていると、いろいろと悩みはあると思うんですね。

今、うちの下の子の5歳の娘は、激しいんです。イヤイヤ期が大分始まって、天使と悪魔が混在をしているような状況を今経験をしていて、「こんにちは赤ちゃん事業」という形で、立川市でも保健師が最初に来て、うち、一回来たただけだよなって。でも、それだって、あれなんだよなって。

僕の中でも、今、まだ正式には言えないんですけれども、市として困っている方とか何とかというものを福祉部門だ何だにつなげていこうという仕掛けを考えていて、まだ予算の発表までには制度設計をうまくしたいなというふうに、まだ市の中でも知っている人はごく僅かということを考えています。電子母子手帳のアプリをさらに発展させて、子育て応援アプリみたいにして、そういう活動をしている人たちの情報を共有しながら、ただ、そこだけで共有していてももったいないので、それをほかの人にも見てもらえるような、市としていろんなところの橋渡しができるようなことだとか、いろいろと知恵をいただいて住みやすいまちにしていきたいなと思っています。ぜひ、一回時間を取って話しましょう。

担当はどこになるのかな。

(参加者)

子ども家庭支援センターの担当の方とは、事前にいつもお話をさせていただいております。健康推進課の方にも御相談をさせていただいているので、あとは酒井さんにお話したいなと思っています。

(市長)

ああ、じゃ、待っています。

(参加者)

本当に担当課だけでやるということではなく、市全体で取り組まなきゃいけないと考えています。

(市長)

そう。いろいろな担当課があって、そこがちゃんと横串が刺さって、連携をして、それぞれの、繰り返しになっちゃいますけれども、それが市としてしっかりと共有ができて、さらに市が共有をするということは、多くの市民の皆さんにそういう取組が共有できるような施策を考えていくのが地域全体に広がっていくのかなと思いますので、ぜひよろしくお願いします。

(参加者)

ありがとうございます。よろしくお願いします。

(司会)

ありがとうございます。

それでは、最後の方になりそうですが……。

(市長)

お子さん……。

(司会)

ありがとうございます。本日最後の方になるかと思います。お願いします。

(参加者)

息子もしゃべるんですけど、パパが先にしゃべってと言われたのでちょっとしゃべります。

今回は、多分前市長のときの倍ぐらいいるんじゃないかな。全然盛り上がり方が違うので。

気づいたことを幾つかお話しするんですけど、まずたばこの話は、西国立の駅前もひどくて、せめて紙たばこは禁止にしてもらえると、煙が、子どもだと逃げられないので、そういう段階的な対応を御検討いただけたらいいなと思います。

あと、最近柴崎体育館のプールに子どもと行って、この間、PFASの件、拝見しました。ありがとうございます。それとは別に、古いからなのか、非常に中が臭いんですね。プラス冬はとてつもなく寒くて凍えるという状態で、昨日浮気をして国立のプールに行ったらそういうことはなかったので、どうにかできるといいなと思っています。大分先になると聞いていたんですけど、中の清掃だったらもう少し早くできるかなと思いました。

あと、ボール遊びの件なんですけど、多分近隣の方は、先ほどのスケボーの話じゃないんですけど、音が気になるというのが一番だと思うので、場合によっては、今ペアガラスにすることで断熱の話の補助にもなるし、音も静かで、うちはたまたまペアガラスにしたので、音がとても聞こえないようになっているので、それで大分変わるのかなと思います。なので、公園の周りの方も喜んでもらえるような施策と一緒にやれると、ボール遊びの解禁というところにつながるのかなと思いました。

君の番です。

お願いしたことがあるそうです。

(参加者)

デッキのところの中が、折れてる。

(参加者)

すみません、いきなり何の話か分かんないですよ。ちょうど、そこの未来センターの
ところの外側にデッキがあるんですね。帰りによく遊んだりするんですけど、ウッドデッ
キみたいになっているところが大分破損してしまっていて、帰りにあれだったら見ていただい
て、子どもがいるところなのでふいに触ってしまったりということもあると思うので、こ
の子が話したいと。すみません、いろいろ言ってしまうして。

(市長)

ありがとうございます。西国立駅の周辺のたばこですよ。西国立駅の周りは、指定に
はなっていたっけ。どうだったっけかな。ごめんなさいね。僕もたばこは吸わない人間で
すし、歩きたばこかを見てみると、子どもの目線のところにたばこの火がというところ
があるので、そこについても、たばこを吸っちゃいけないとまでは言えない。どうやって
分煙化をしていくのかという話にしか現状ならないので、その部分についても、立川駅周
辺だけではなくて西国立駅周辺についても対応しているように担当の課とも相談をしてみ
たいと思います。

柴崎体育館については、あれは中規模になるのかな、これから中規模改修で、トイレか
ら何から臭いじゃないですか。で、本当に寒いんですよ。なので、今の指定管理者の期
が、あと1年だけ。令和7年度からしばらくお休みをすることになりますが、あと1年
間はそういう形なんですけど、令和7年から改修に入って、中のいろいろと不具合とか何
とかも直していくという形なので、それが完成すると今よりは使いやすくなっていくとい
うことだと思います。また臨時的にここがということがあれば教えていただければ、中規
模改修する前なので、あんまりそこにお金をかけるということではない対応であればして
いけるのかなと思っております。

あと、ボール遊びについて。僕なんかの感覚から言うと、子どもの笑い声だとか泣き声
が聞こえないようなまちというのはあんまりいいまちじゃないなと思っているんだけど、
その一方で、当然子どもたちが騒ぐとうるさいと言われる向きもあると思います。ですの
で、断熱ガラス云々というところ、これはどの家庭がどれまでになるのかというのは、一
つのアイデアとして……。

私の政策の中でも、環境の地域循環の中で、市内業者を育成ということもあって、今、
ウクライナの戦争とかが始まる前の数字なんですけど、僕が何で地域循環を、エネルギー
をテーマにしていきたいのかと考えたときに、毎年毎年、当時の試算で、もう4年ぐらい
前ですかね、立川市内の光熱費、民間の御家庭、会社、あるいは事業所、全てを合わせると
約310億円が毎年立川から域外に出ていってしまっている。多分、今だったら400億とか。
それを少しでも地域の経済に回せないかということで、固定資産税等の減免措置は国の制
度の中でやっているんですが、利用者が少ない。であるならば、そういったところに、市
として、市内業者を使っていただければ補助しますよみたいな制度ができないのかねとい
うことで、担当の環境部門にこれから制度設計をしてもらおうということも考えてはいます。
ですが、それでも種銭ぐらいにしかならないので、どこまでやっていただけるかというこ
とはあるんですが、そういったことも今後考えていきたいと思っております。

デッキの破損。帰りに見ていきます。お子さんたちが遊ぶところですので、けがをする
と大変なので、担当とも帰りに見ていきますので、教えていただければと思っております。

以上です。

(司会)

ありがとうございます。

本日は、皆様、活発な御意見交換をしていただきましてありがとうございます。多くの課題をいただきましたので、持ち帰らせていただいて、対応できるよう進めてまいりたいと思います。本日は、「市長と語ろう！ 子育て世代タウンミーティング」に御参加いただきまして、皆様、ありがとうございます。

3 閉会の挨拶

(市長)

本日は、皆様方には「市長と語ろう！」、この間は老人クラブ連合会の方とやりまして、今日はいろんな方から多岐にわたる御提案や御質問をいただきまして、ありがとうございました。私にとっては、今自分が置かれている状況と同じような環境にいらっしゃる皆さんからの御意見をお伺いすることができて、まだまだ僕的には、こんなこともやりたいんです、あんなこともやりたいんですということをお伝えしたい。けれども、それは予算の原案を見ていただくと、子育て中の皆さんには、立川はこんなことやるの、あんなことやるのという、酒井を選挙で選んでよかったなと思ってもらえるような序章が、まだこれで全てじゃないので、まず第一章が始まっていくということを少しは実感していただけるのではないかなと思っています。

立川市、先ほどもお話があったとおり、私だけの思いではなくて、市全体で地域の子どもたちをしっかりと育てていく。また、それを育てているお父さんやお母さんの御苦労に少しでも寄り添えるような市として、本日子ども部門、あるいは総合政策、そのほかにも医療・健康だとか、いろんなセクションがありますけれども、横断的に皆さんが立川の中で子育てしやすい環境を、心も籠もった、あるいは物的にもそろった、あるいは懷的にも少し楽になったと言っていたような市政を目指して取り組んでまいりたいと思います。またぜひこういう機会を、今うれしいお話で、前の市長さんのときよりも多くの方に集まっていただいて、その分だけ期待と責任が重いということを実感して、私も市政の運営と自分自身の子育てにも取り組んでいきたいと思っていますので、ぜひとも今後ともいろいろと御意見をお寄せいただければと思います。

本日は、大変おしゃべりな市長で、皆さん、よくしゃべるなと思っているかもしれませんが、これでも思っていることの3分の1ぐらいお話をさせていただいたということで御理解をいただければと思います。

そして、立川の未来を担うお子ちゃまたち、うるさい市長でごめんね。どうか、みんながこのまちの中で健やかに、本当に立川がふるさとだということを、大人になって海外とかに行ったときに、日本には立川といういいまちがあるんだということを、その頃には私はもう市長じゃないと思いますけれども、みんなに言ってもらえるようなまちに政治家の責任として取り組んでいくので、みんな楽しみにしていてね。健やかに、元気に成長してくれればと思います。

ということで、お子ちゃまたち、ありがとう。ありがとう。あれ？なかなか子どもには人気がまだまだない市長でございました。やっぱりくるりんじゃないと駄目ですね。

ということで、本当にありがとうございました。また今後ともよろしく願いいたします。

— 了 —